

最優秀賞

神奈川新聞社長賞

見守る心

秦野市立本町中学校

一年 諏訪寛次

僕の家の方に一人暮らしのおばあさんが、住んでいます。

雨の日も、暑い日もシルバーカーの座席にゴミ袋を置いてゴミの日には収集場所まで歩いて出しに來ます。行きは、なだらかな坂になっているので、おばあさんは少し進んでは、立ち止まり休憩をして又、ゆっくり進み収集場所まで歩きます。

雨の朝、僕がゴミを出して帰ろうとしたらおばあさんが、シルバーカーを押して歩いてくるのが見えました。両手でカートを押しているのに傘もさせず、濡れながら歩いていました。すぐに、おばあさんに

「ゴミ持っていきます。」

と伝えると

「ゴミ出しは、私の運動だから。これぐらいは自分でやらないと、だから大丈夫だよ。」と言われました。

「ゴミ出しが運動」

その意味が最初は分からなかったが、家に帰って母に伝えたら、おばあさんは足腰が弱い様に、朝夕と散歩に行き、リハビリのデイサービスに通っていつまでも自分の足で元気に暮らせるように過ごしていることを聞きました。

「大丈夫。」

と言われた時に、雨が降っていたから僕に遠慮したのだ。濡れながら歩くなら、頼めばいいのに。

と思ったが、良かれと思って僕がやってしまうと、その人の頑張っている事や、今できる事を取ってしまうのだと知りました。

「近所で見守ることが一番大事。」

と母は言いました。

母はおばあさんの家に回覧板を持っていく時は、顔を合わせて挨拶をして会話をし、家の前を通るときは、新聞が溜ってないか、何か変化がないか気にかかけ見守っていると話していました。

「見守るってなんだろう?」

言葉を調べたら

「危険がないように気を配る」とあった。

僕が小学校の時は毎朝、おばあさんの家の前を通ると

「おはよう。いつてらっしゃい。」

「雨だから車に気をつけてね。」

「最近、お兄ちゃんは見ないけど元気？」

と声をかけてくれました。ただの挨拶だと思って言葉を交わしていたが、おばあさんに毎朝、見守ってもらっていたのだと気づきました。

今の僕ができることは何だろう。

おばあさんは自分の足でゴミを出したい。僕が出来ることは、ゴミが多い時は、シルバーカーのバランスが崩れ転びそうなので一つゴミを持ってあげて、一緒に歩きたい。雨の時は傘を差してあげたい。ゴミの収集場所はカラス除けのネットが重いので、ネットを開けてゴミを捨てやすいように手伝いたい。歩行が大変そうなときは声をかけて手伝える事があるか。会話をしたい。

これならおばあさんの運動を応援しながら僕ができる事かなと考えました。

そして、沢山のあいさつで今まで僕たち家族を、ずっと見守って応援してくれたようにこれからは僕も、一人暮らしのおばあさんが困っていることはないか？何か変化はないか？と感じながら、おばあさんに会ったら見守る心をプラスして大きな声で、あいさつをしたい。

そしておばあさんを見守っていききたい。

